

# 諏訪の景気動向

平成23年11月

(平成23年10月末 D・I調査)

平成23年11月24日  
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

## 諏訪地方の景気動向（平成23年10月末）

「平成23年10月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方183社のご協力を得て行った10月末の「景気動向調査（D I調査）」では、回答全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 5.4$ と前回調査時（平成23年7月末、以下同）の19.3から24.7ポイント悪化しマイナスに転じた。

製造業の業況判断D Iは $\Delta 4.6$ で前回調査時の13.0から17.6ポイントの悪化、非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の同D Iも $\Delta 7.6$ と前回調査時の35.3から42.9ポイントの大幅な悪化となった。前回調査時は、東日本大震災の落ち込みからの回復傾向が顕著で回答全社の業況判断D Iは4期振りにプラスに転じたが、今回の調査では各業種ともその回復傾向に一服感がみられる。

また、「3ヶ月後」の業況予想D Iは、製造業が $\Delta 22.4$ （前回調査時13.6）、非製造業が $\Delta 35.9$ （前回調査時5.9）といずれもマイナスに落ち込むなど先行きに不透明感が出ている。

製造業の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業20.0%、「悪化」企業24.6%とその割合は拮抗しているが、同D Iは $\Delta 4.6$ と前回調査時の13.0から17.6ポイント悪化してマイナスに転じた。また、先行きに関する「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「横這」とする企業が62.0%と最も多いものの、「好転」企業が7.8%、「悪化」企業が30.2%で同D Iは $\Delta 22.4$ と前回調査時の13.6から36.0ポイントの大幅悪化となった。なお、収益性D Iは「3ヶ月前」との比較では $\Delta 15.4$ と前回調査時の $\Delta 9.9$ からの悪化幅は5.5ポイントと小幅なもの、「3ヶ月後」の予想では33.3%の企業が「悪化」を見込み同D Iは $\Delta 27.7$ と前回調査時の $\Delta 5.3$ から22.4ポイント悪化し、6期連続マイナスと厳しい収益状況が窺える。

前回の調査時は震災後の混乱から正常化が進んでおり、下期にかけても自動車部品などで減産分の挽回のための増産が見込まれており、総体的には比較的堅調に推移するのではないかとといった見方が大勢を占めていた。しかし、今回の調査では直接的な影響を受けている企業はまだ少ないものの、度重なる円最高値の更新、タイの洪水、また欧州の債務危機の拡大などのマイナス要因が顕在化しつつあり、先行きの不透明感が拭えない状況となっている。

商業の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」が23.5%、「悪化」が29.4%と店舗により区々であるものの、同D Iは $\Delta 5.9$ と前回調査時の31.3から再びマイナスに転じた。

食料品は、御柱小宮祭があった前年同月に比べると売上高・客数ともに減少した店舗が多い。また、タイの洪水の影響で12月の需要期に「エビ」や「鶏肉」の加工食品などの品薄や値上りが危惧されている。自動車販売では、諏訪地方の10月の車庫証明件数（軽自動車除く）は949台で前年同月比+60台（+6.7%）増加と2ヶ月連続で前年を上回った。

なお、冬の節電対策として、衣料品では保温性の高い機能性肌着などのウォームビス関連、家電店やホームセンターではLED電球や石油ストーブ、また各種の節電グッズの対応商品の品揃えを強化している。

**観光・サービス業**は、秋の行楽シーズンを迎え各観光地は賑わいをみせた。昨年の信州DCの反動が懸念されていたが、諏訪大社の10月の参拝者数（上社・下社合算）は約83千人と御柱年の昨年と比べ約+14千人、一昨年に比べては約+39千人も増加した。団体客では、東北方面からの振替え等の影響がきかれる。また、「前年同期」と比べた業況判断DIでは66.7%の施設で「好転」したとして同DIは42.9、宿泊客数DIでも57.1%の施設で「好転」したとして23.8と高水準になっているものの、客単価DIでは「3ヶ月前比」、「前年同期比」、「3ヶ月後の予想」ともマイナスとなっている。

一方、例年 端境期となる冬の観光シーズンは、「3ヶ月後」の業況予想DIが△47.6、宿泊客数DIは△57.2と大幅なマイナスとなり、引き続きオフシーズンの集客が課題となっている。

**建設業**の「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは△20.0と前回調査時の△21.4から引き続き水面下での推移となっている。また、「3ヶ月後」の「業況」、「受注」、「外注発注量」の予想では、「好転」を見込む企業はなく厳しい状況が続いている。

諏訪地方の9月の新設住宅着工戸数は133戸とマンションの着工があったことから、前年同月の87戸に比べ+46戸（+52.9%）の増加となった。また、平成23年4月～9月の累計着工戸数は649戸で前年同期累計比では+132戸（+25.5%）の増加となった。住宅金融支援機構の住宅ローン「フラット35S」の1%の金利優遇期限が9月末までのため、足元では駆け込み需要が発生し着工件数は伸びたものの年度の後半は減少傾向が見込まれる。

10月に地元業者が受注した県関係の公共工事は22件458百万円で、平成23年4月～10月の累計契約は104件2,347百万円と前年同期累計比では件数は△10件、契約金額は△810百万円の減少となった。また、市町村の10月の発注工事は86件775百万円で、前年同月に比べ件数は△12件、契約金額は△300百万円の減少となった。

**雇用状況**は、平成23年9月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月を+0.16ポイント上回り0.81倍と前年同月を18ヶ月連続で上回っており、低水準ではあるが回復傾向は続いている。また、長野県の同倍率は0.77倍、全国の同倍率は0.67倍となっている。

なお、諏訪地域の9月の新規求人数（全数）は1,297人で前年同月比+212人（+19.5%）の増加、新規求職者数は1,070人で前年同月比△33人（△3.0%）の減少となっている。また、1件10人以上の人員整理は1件15人で、事業主都合による雇用保険資格喪失者は60人と前年同月より△14人、前月より△22人減少した。

## 業況判断D Iの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（183社）の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは「好転」企業が20.8%、「横這」企業が53.0%、「悪化」企業が26.2%で同D Iは△5.4と前回調査時の19.3から24.7ポイント悪化しマイナスに転じた。

製造業の業況判断D Iは「好転」20.0%、「横這」55.4%、「悪化」24.6%と「好転」企業と「悪化」企業の割合は拮抗しているものの同D Iは△4.6で、前回調査時の13.0から17.6ポイント悪化しており震災後の回復傾向に一服感がみられる。

また、非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断D Iも△7.6と前回調査時の35.3から42.9ポイントの大幅な悪化となった。

産業別業況表

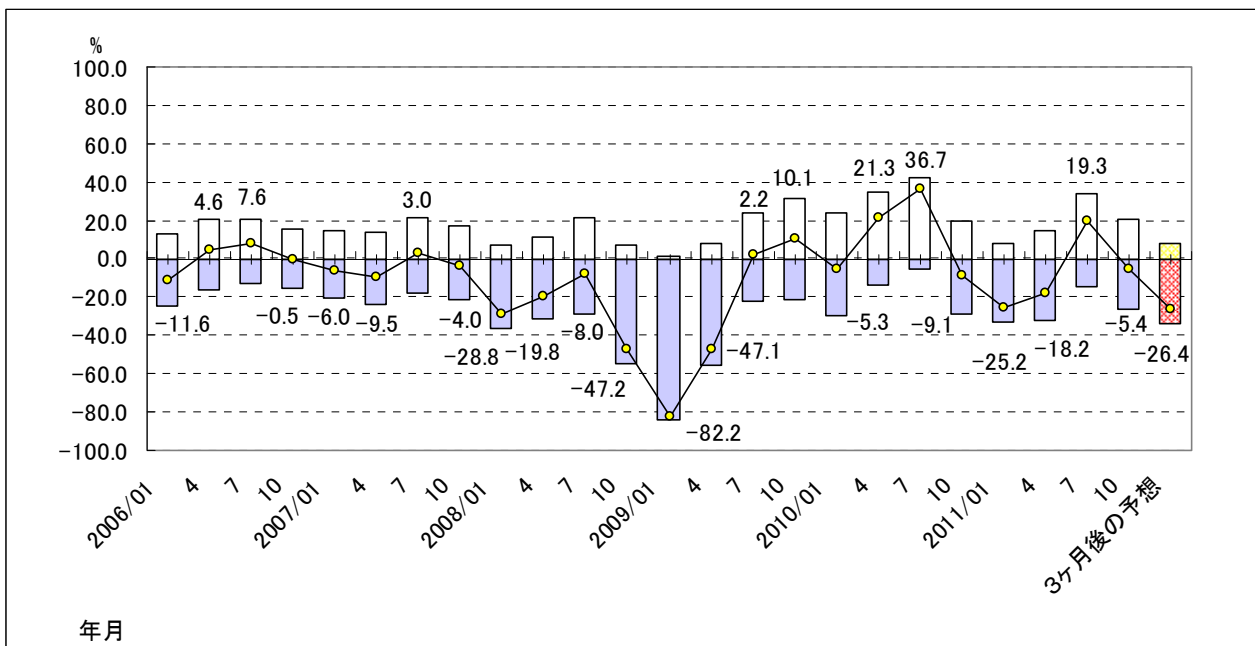
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	183	20.8	53.0	26.2	-5.4	183	27.9	33.9	38.3	-10.4	182	7.7	58.2	34.1	-26.4
製造業	130	20.0	55.4	24.6	-4.6	130	24.6	38.5	36.9	-12.3	129	7.8	62.0	30.2	-22.4
非製造業	53	22.6	47.2	30.2	-7.6	53	35.8	22.6	41.5	-5.7	53	7.5	49.1	43.4	-35.9
商業(大型店)	17	23.5	47.1	29.4	-5.9	17	17.6	17.6	64.7	-47.1	17	17.6	41.2	41.2	-23.6
建設業	15	0.0	80.0	20.0	-20.0	15	13.3	46.7	40.0	-26.7	15	0.0	66.7	33.3	-33.3
観光・サービス	21	38.1	23.8	38.1	0.0	21	66.7	9.5	23.8	42.9	21	4.8	42.9	52.4	-47.6

### 自社業況判断D Iの推移

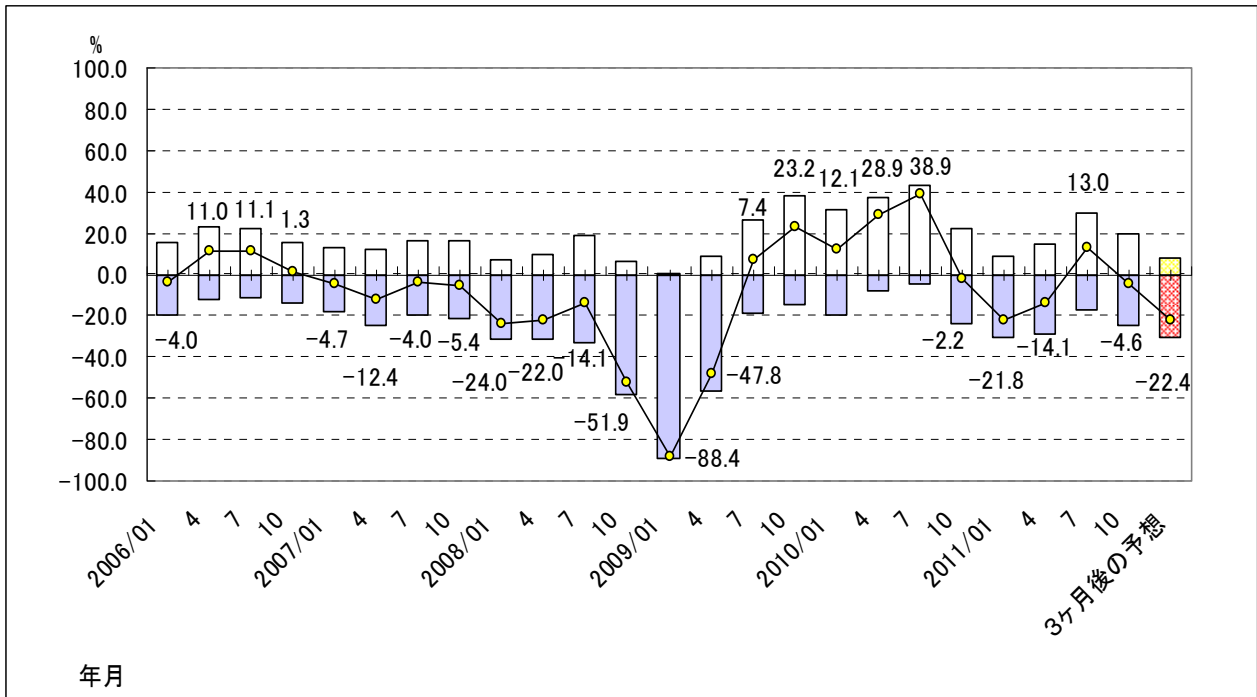
●回答全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-1



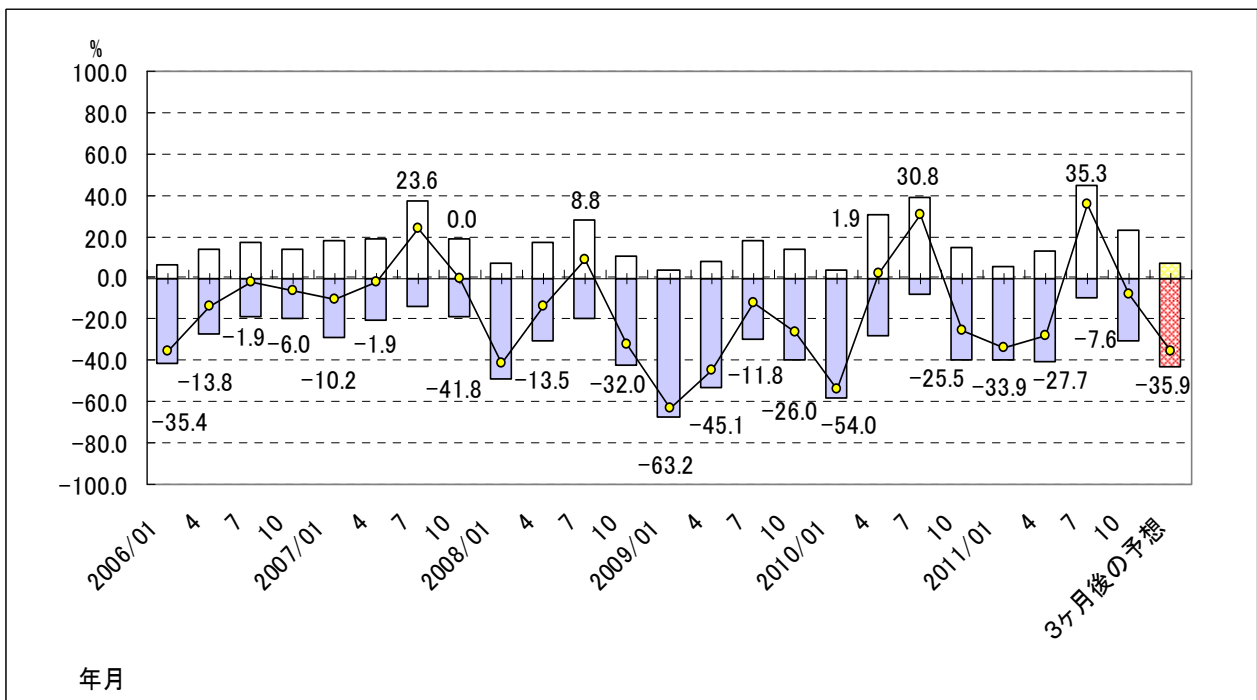
●製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-2



●非製造業：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-3



## 産業別景気動向

### 1. 製造業

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業 20.0%、「悪化」企業 24.6%とその割合は拮抗しているが、同D Iは△4.6と前回調査時の 13.0 から 17.6 ポイント悪化してマイナスに転じた。また、先行きに関する「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「横這」とする企業が 62.0%と最も多いものの、「好転」企業が 7.8%、「悪化」企業が 30.2%で同D Iは△22.4と前回調査時の 13.6 から 36.0 ポイントの大幅悪化となった。

収益性D Iは「3ヶ月前」との比較では△15.4と前回調査時の△9.9からの悪化幅は 5.5 ポイントと小幅なもの、「3ヶ月後」の予想では 33.3%の企業が「悪化」を見込み同D Iは△27.7と前回調査時の△5.3から 22.4 ポイント悪化し、6期連続マイナスと厳しい収益状況が窺える。

「3ヶ月前比」の受注状況D Iは△9.3と、前回調査時の 10.8 から 20.1 ポイント悪化しマイナスに転じた。また、前回調査時に 29.2%の企業が「増加」を見込み 16.9 とプラス転換していた「3ヶ月後」の受注予想D Iは、今回調査では 35.2%の企業が「減少」を見込み△24.3と大幅に悪化した。

規模別の「3ヶ月後」の受注予想D Iでは、「1～29人企業」の「3ヶ月後」の受注予想では 50.0%の企業が「減少」として同D Iは△45.0と前回調査時の 6.9 から 51.9 ポイント悪化するなど、規模による受注環境の予想は相違している。

業種別（主要 5 業種）の「3ヶ月前」と比べた受注状況では、輸送用機械の 46.2%の企業が「増加」として同D Iは 38.5 と前回調査時の 26.6 から 11.9 ポイント改善したが、他の 4 業種のD I値は悪化しており、金属製品を除く 3 業種はマイナスに転じた。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
<b>製造業</b>	130	20.0	55.4	24.6	-4.6	130	24.6	38.5	36.9	-12.3	129	7.8	62.0	30.2	-22.4	
規模	1～29人	62	19.4	51.6	29.0	-9.6	62	19.4	46.8	33.9	-14.5	61	3.3	52.5	44.3	-41.0
	30～99人	42	26.2	50.0	23.8	2.4	42	26.2	31.0	42.9	-16.7	42	14.3	64.3	21.4	-7.1
	100人～	26	11.5	73.1	15.4	-3.9	26	34.6	30.8	34.6	0.0	26	7.7	80.8	11.5	-3.8
中分類	金属製品製造業	16	25.0	43.8	31.3	-6.3	16	18.8	25.0	56.3	-37.5	16	6.3	75.0	18.8	-12.5
	一般機械器具製造業	35	20.0	51.4	28.6	-8.6	35	28.6	42.9	28.6	0.0	35	11.4	48.6	40.0	-28.6
	電気機械器具製造業	25	16.0	56.0	28.0	-12.0	25	32.0	16.0	52.0	-20.0	24	4.2	70.8	25.0	-20.8
	輸送用機械器具製造業	13	38.5	53.8	7.7	30.8	13	38.5	53.8	7.7	30.8	13	23.1	53.8	23.1	0.0
	精密機械器具製造業	11	9.1	72.7	18.2	-9.1	11	18.2	63.6	18.2	0.0	11	0.0	81.8	18.2	-18.2

## ①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

### ●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断は「好転」企業25.0%、「悪化」企業31.3%と企業により区々となっている。一方、「前年同期比」では56.3%の企業が「悪化」として同D Iは $\Delta 37.5$ と前回調査時の $\Delta 40.0$ に続きマイナスでの推移となっている。一部でタイの洪水による受注増加がきかれる。

### ●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは $\Delta 8.6$ と前回調査時の11.8から20.4ポイント悪化した。また、一部にタイの洪水被害から工作機械等の需要増加が見込まれるとの声もあるが、「3ヶ月後」の業況予想では40.0%の企業で「悪化」を予想し同D Iは $\Delta 28.6$ と5業種の中で最も慎重な見方となっている。

### ●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断は「好転」企業16.0%、「悪化」企業28.0%で、同D Iは前回調査時の10.7から22.7ポイント悪化し $\Delta 12.0$ と5業種の中で最もD I値は落ちこんだ。また、「前年同期比」の業況判断では「横這」とする企業は16.0%と少数で、「好転」企業が32.0%、「悪化」企業52.0%と企業により景況感は区々となっている。

### ●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

タイの洪水等の影響を懸念する声がかかるものの、10月末の調査時点の業況は比較的堅調で「3ヶ月前」と比べた業況判断では38.5%の企業が「好転」として、同D Iは30.8と前回調査時の26.6から4.2ポイント改善し5業種の中で唯一プラスでの推移となっている。また、「前年同期比」の業況判断D Iも30.8と高水準であるが、「3ヶ月後」の業況予想では「好転」企業23.1%、「悪化」企業23.1%で同D Iは0.0と企業により見方が区々となっている。

### ●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「横這」企業の割合が72.7%と5業種の中で最も多くなっている。また、「前年同期比」の業況判断では、「好転」企業と「悪化」企業の割合が同数で同D Iは0.0、「3ヶ月後」の業況予想では「好転」を見込む企業はなく同D Iは $\Delta 18.2$ となっている。

## ②規模別業況

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iでは、「30~99人企業」は2.4とプラスを維持したものの、「1~29人企業」は $\Delta 9.6$ 、「100人以上企業」は $\Delta 3.9$ とマイナスに転じた。

また、「3ヶ月後」の業況予想D Iでは「100人以上企業」は $\Delta 3.8$ 、「30~99人企業」では $\Delta 7.1$ とD I値はマイナスではあるが一桁台に踏みとどまっている。しかし、「1~29人企業」では前回調査時から41.0ポイント悪化し同D Iは $\Delta 41.0$ と大幅にマイナスに落ち込んでいる。

### ③受注状況D I（規模別、業種別）

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況は「増加」企業 21.7%、「減少」企業 31.0%で同D Iは $\Delta 9.3$ と前回調査時の 10.8 から 20.1 ポイント悪化しマイナスに転じた。また、「前年同期」と比べた受注状況では、「増加」企業 25.6%、「不変」企業 35.7%、「減少」企業 38.8%と企業により区々であるものの、同D Iは $\Delta 13.2$ と前回調査時の $\Delta 7.7$ からマイナス幅が拡大している。なお、前回調査時に 29.2%の企業が「増加」を見込み 16.9 とプラス転換していた「3ヶ月後」の受注予想D Iは、今回調査では 35.2%の企業が「減少」を見込み $\Delta 24.3$ と大幅に悪化した。

規模別の受注状況D Iでは、全ての規模で「3ヶ月前比」、「前年同月比」、「3ヶ月後の予想」ともマイナスとなっている。「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iは規模による差異は大きくないが、「3ヶ月後」の受注予想D Iでは「100人以上企業」では「横這」企業が 73.1%と最も多く同D Iは $\Delta 3.9$ と小幅なマイナスであるが、「1~29人企業」の「3ヶ月後」の受注予想では 50.0%の企業が「減少」として同D Iは $\Delta 45.0$ と前回調査時の 6.9 から 51.9 ポイント悪化するなど、規模による受注環境の予想は相違している。

業種別（主要 5 業種）の「3ヶ月前」と比べた受注状況では、輸送用機械の 46.2%の企業が「増加」として同D Iは 38.5 と前回調査時の 26.6 から 11.9 ポイント改善した。しかし、他の 4 業種のD I値は悪化しており、金属製品を除く 3 業種はマイナスに転じた。また、「3ヶ月後」の受注予想でも輸送用機械の同D Iは 0.0 に踏みとどまるも、他の 4 業種はマイナスに転換した。なかでも、金属製品の同D Iは前回調査時の 20.0 から 45.0 ポイント悪化し $\Delta 25.0$ 、電気機械の同D Iは前回調査時の 11.5 から 40.6 ポイント悪化し $\Delta 29.1$ に落ち込んでいる。

業種別・規模別受注状況表

表-3

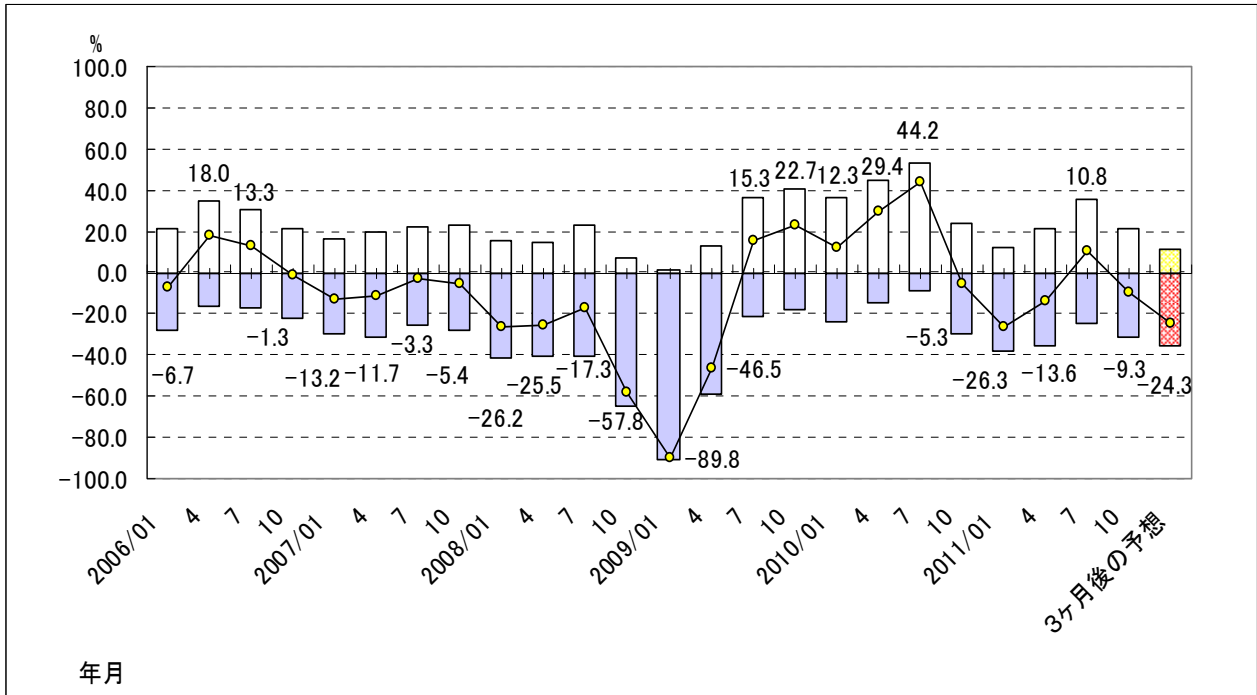
		3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
		回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI
	<b>製造業</b>	129	21.7	47.3	31.0	-9.3	129	25.6	35.7	38.8	-13.2	128	10.9	53.9	35.2	-24.3
規模	1~29人	61	21.3	45.9	32.8	-11.5	61	19.7	42.6	37.7	-18.0	60	5.0	45.0	50.0	-45.0
	30~99人	42	23.8	47.6	28.6	-4.8	42	28.6	31.0	40.5	-11.9	42	19.0	54.8	26.2	-7.2
	100人~	26	19.2	50.0	30.8	-11.6	26	34.6	26.9	38.5	-3.9	26	11.5	73.1	15.4	-3.9
中分類	金属製品製造業	16	31.3	43.8	25.0	6.3	16	25.0	25.0	50.0	-25.0	16	6.3	62.5	31.3	-25.0
	一般機械器具製造業	35	14.3	51.4	34.3	-20.0	35	28.6	34.3	37.1	-8.5	35	20.0	40.0	40.0	-20.0
	電気機械器具製造業	25	24.0	40.0	36.0	-12.0	25	36.0	20.0	44.0	-8.0	24	4.2	62.5	33.3	-29.1
	輸送用機械器具製造業	13	46.2	46.2	7.7	38.5	13	38.5	38.5	23.1	15.4	13	23.1	53.8	23.1	0.0
	精密機械器具製造業	11	9.1	63.6	27.3	-18.2	11	18.2	54.5	27.3	-9.1	11	0.0	72.7	27.3	-27.3



製造業の受注状況D Iの推移

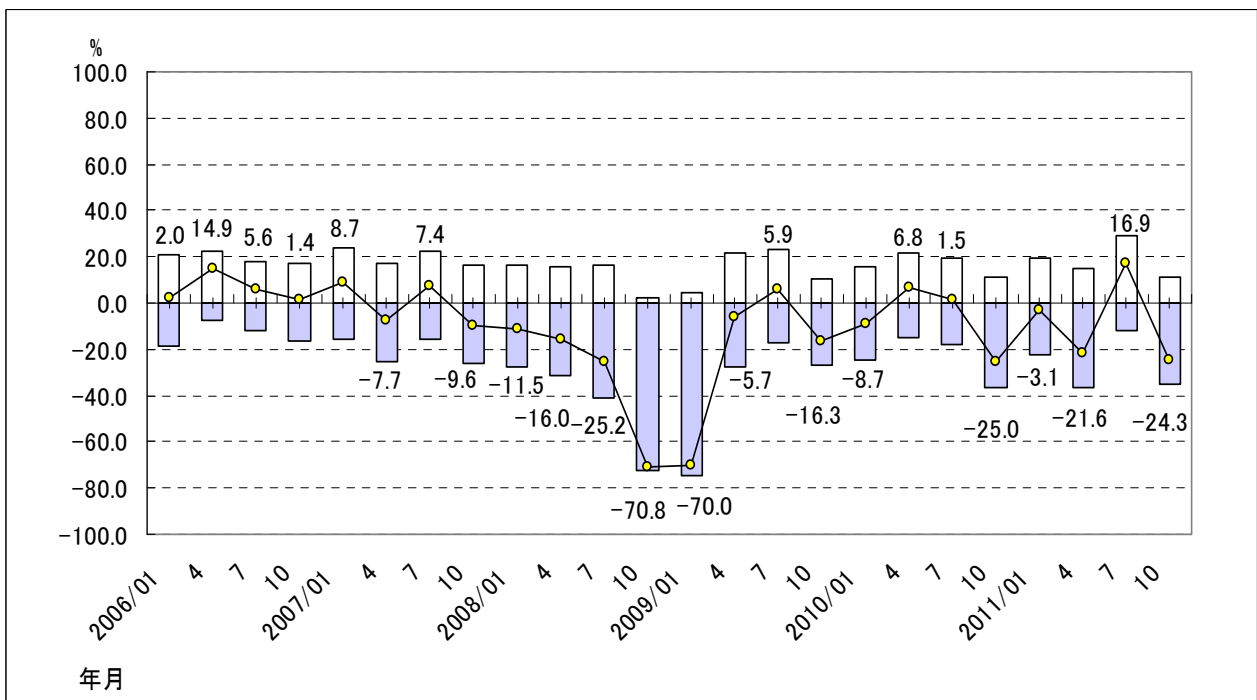
●製造業全社：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフー4



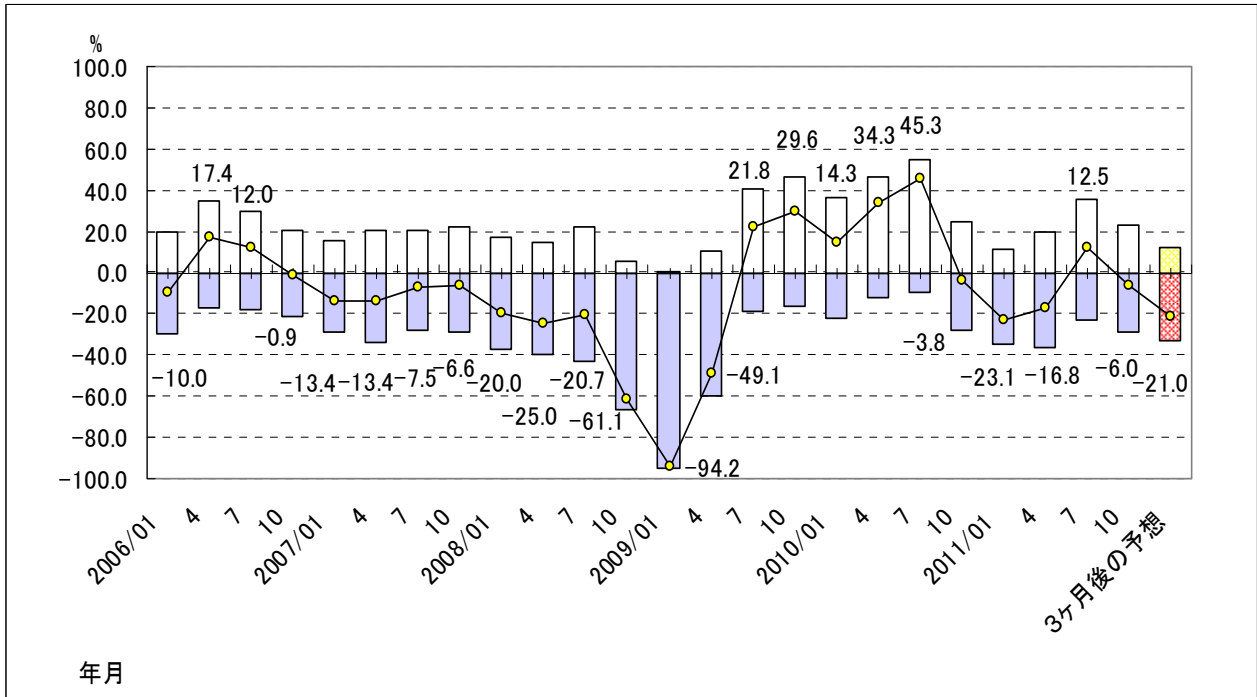
●製造業全社：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー5



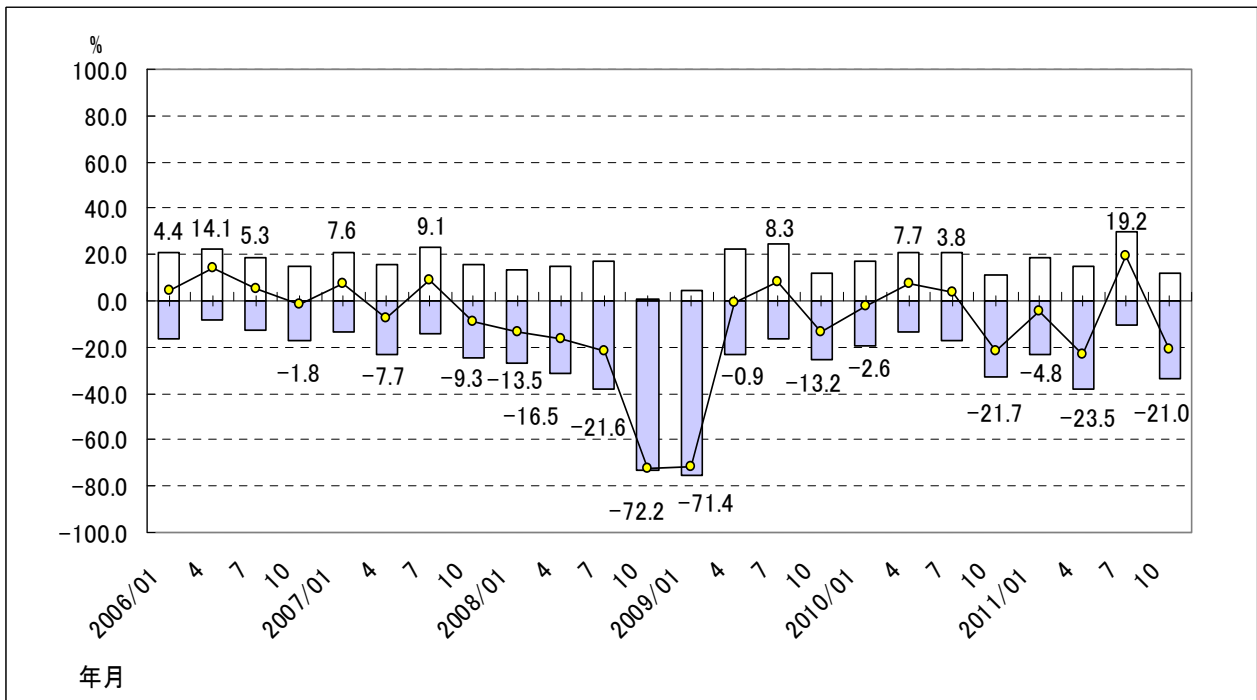
●製造業 主要5業種：「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iの推移

グラフー6



●製造業 主要5業種：「3ヶ月後」の受注予想D Iの推移

グラフー7



## 2. 商業・観光サービス業

### ①商業

「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは、「好転」が23.5%、「悪化」が29.4%と店舗により区々であるものの、同DIは△5.9と前回調査時の31.3から再びマイナスに転じた。冬の節電対策として、衣料では保温性の高い機能性肌着などのウォームビス関連、家電店やホームセンターでは石油ストーブや節電グッズ等の対応商品の品揃えを強化している。

- 食料品 御柱小宮祭があった前年同月に比べると、売上高・客数ともに減少した店舗が多い。引き続き価格競争が激しいなかで、タイの洪水の影響はまだ出ていないが、12月の需要期にはエビなどの品薄や値上りも危惧されている。
- 衣料品 ウォームビス関連や婦人服などの売れ行きが堅調な店舗もみられるが、総体の動きは引き続き低調である。
- 自動車 諏訪地方の10月の車庫証明件数（軽自動車除く）は949台で前年同月比+60台（+6.7%）増加と2ヶ月連続で前年を上回った。東日本大震災による新車の供給不足は解消されたが、タイの洪水の影響を懸念する声がかかる。
- 家電店 LED電球や太陽光発電などの販促に力を入れている店舗がみられる。
- ホームセンター 冬の節電対策として石油ストーブや湯たんぽ等の動きが好調である。

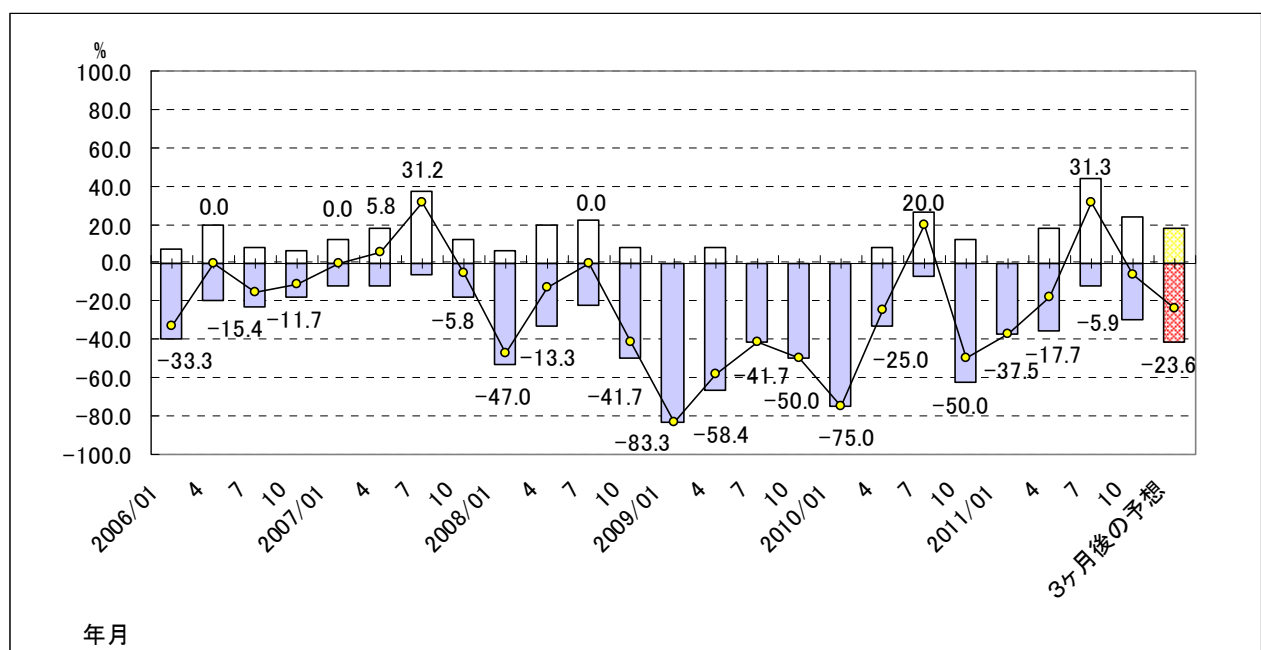
#### 業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	17	23.5	47.1	29.4	-5.9	17	17.6	17.6	64.7	-47.1	17	17.6	41.2	41.2	-23.6
客単価	17	11.8	58.8	29.4	-17.6	17	0.0	58.8	41.2	-41.2	17	11.8	58.8	29.4	-17.6
来店客数	17	17.6	17.6	64.7	-47.1	17	17.6	17.6	64.7	-47.1	17	17.6	29.4	52.9	-35.3

#### ●商業全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-8



②観光・サービス業

秋の行楽シーズンを迎え、各観光地は賑わいをみせた。昨年の信州DCの反動が懸念されていたが、諏訪大社の10月の参拝者数(上社・下社合算)は約83千人と御柱年の昨年に比べ約+14千人、一昨年に比べては約+39千人も増加した。団体客では、東北方面からの振替え等の影響がきかれる。

また、「前年同期」と比べた業況判断DIでは66.7%の施設で「好転」したとして同DIは42.9、宿泊客数DIでも57.1%の施設で「好転」したとして23.8と高水準になっているものの、客単価DIでは「3ヶ月前比」、「前年同期比」、「3ヶ月後の予想」ともマイナスとなっている。

一方、例年 端境期となる冬の観光シーズンは、「3ヶ月後」の業況予想DIが△47.6、宿泊客数DIは△57.2と大幅なマイナスとなり、引き続きオフシーズンの集客が課題となっている。

- 上諏訪温泉 昨年の信州DCの反動が懸念されていたが、宿泊客数は比較的堅調でホテル旅館により区々であるものの前年並みから10%程度増加した施設が多い。
- 蓼科・白樺湖・ 紅葉のシーズンを迎え、天候にも恵まれたことから入り込み客は堅調であり、  
車山方面ほか 前年に比べた宿泊客数は10~20%程度増加した施設が多い。
- 諏訪大社 上社・下社合わせた10月の参拝者数は約83千人と御柱年の昨年に比べ約+14千人、一昨年に比べては約+39千人と大幅に増加している。

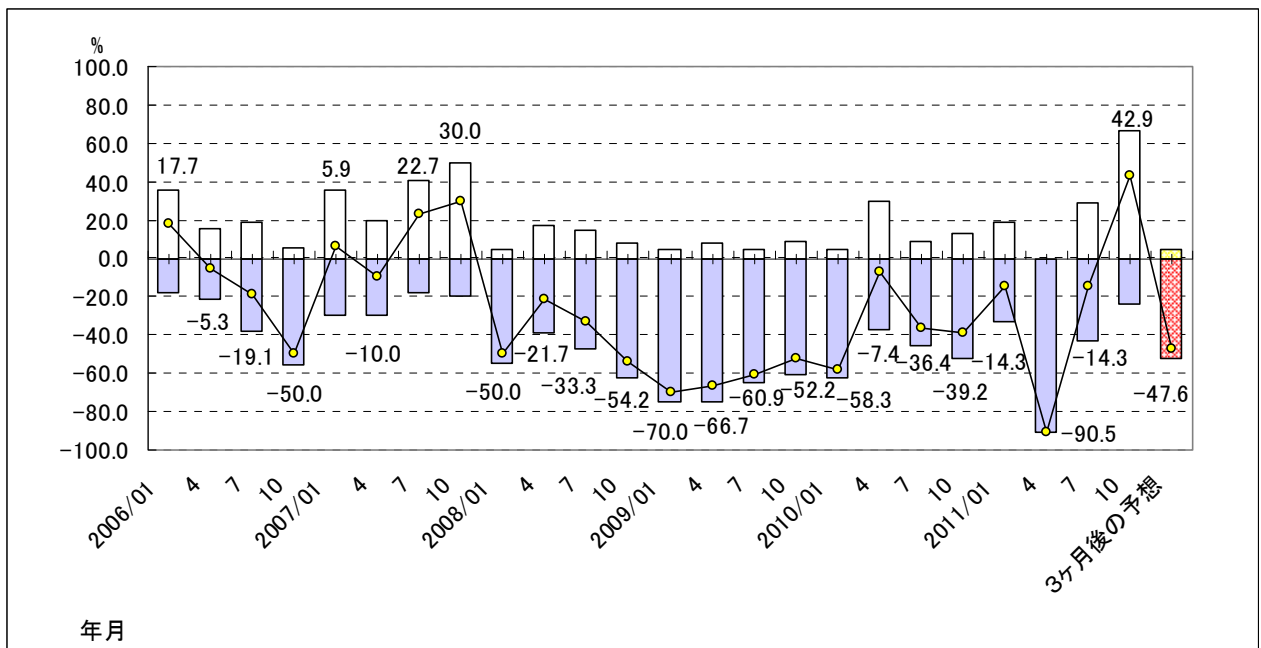
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	21	38.1	23.8	38.1	0.0	21	66.7	9.5	23.8	42.9	21	4.8	42.9	52.4	-47.6
客単価	21	14.3	47.6	38.1	-23.8	21	9.5	57.1	33.3	-23.8	21	9.5	57.1	33.3	-23.8
宿泊客数	21	38.1	14.3	47.6	-9.5	21	57.1	9.5	33.3	23.8	21	9.5	23.8	66.7	-57.2

●観光・サービス業全社：「前年同期」と比べた業況判断DIの推移

グラフ-9



### 3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは△20.0と前回調査時の△21.4から引き続き水面下での推移となっている。また、「3ヶ月後」の「業況」、「受注」、「外注発注量」の予想では、「好転」を見込む企業はなく厳しい状況が続いている。

#### ●建築工事

諏訪地方の9月の新設住宅着工戸数は133戸とマンションの着工があったことから、前年同月の87戸に比べ+46戸(+52.9%)の増加となった。また、平成23年4月～9月の累計着工戸数は649戸で前年同期累計比では+132戸(+25.5%)の増加となった。住宅金融支援機構の住宅ローン「フラット35S」の1%の金利優遇期限が9月末までのため、足元では駆け込み需要が発生し着工件数は伸びたものの年度の後半は減少傾向が見込まれる。

#### ●公共工事

10月に地元業者が受注した県関係の公共工事は22件458百万円で、平成23年4月～10月の累計契約は104件2,347百万円と前年同期累計比では件数は△10件、契約金額は△810百万円の減少となった。また、市町村の10月の発注工事は86件775百万円で、前年同月に比べ件数は△12件、契約金額は△300百万円の減少となった。

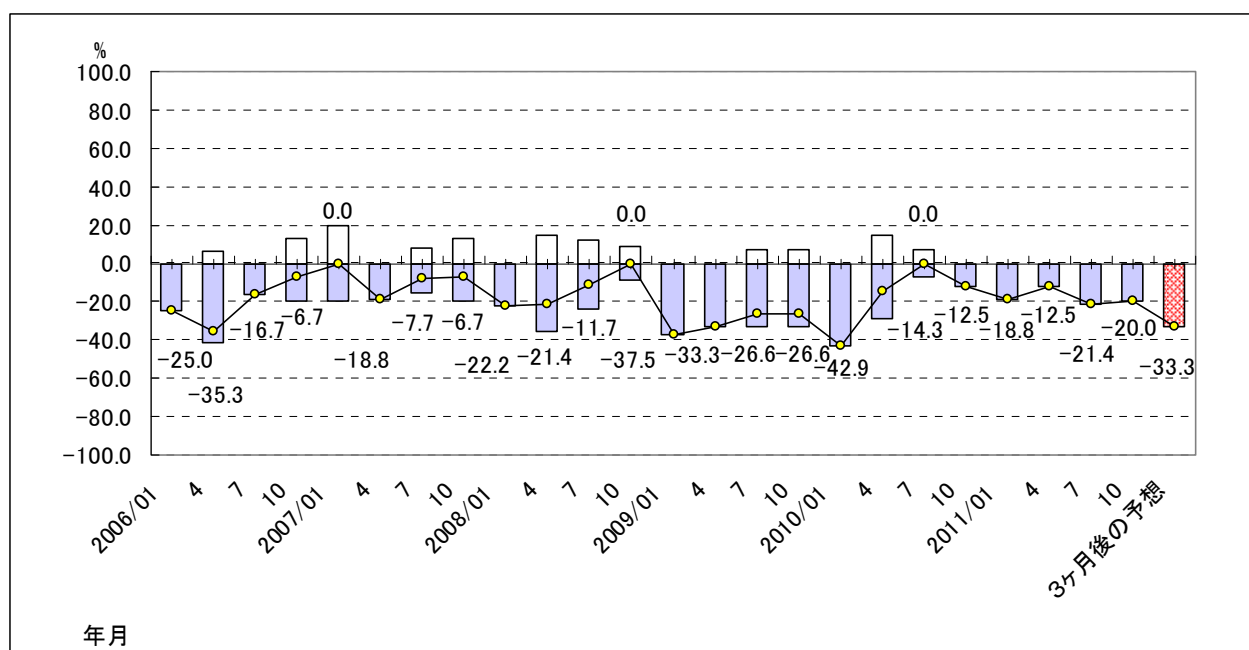
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
業況	15	0.0	80.0	20.0	-20.0	15	13.3	46.7	40.0	-26.7	15	0.0	66.7	33.3	-33.3
受注状況	15	20.0	53.3	26.7	-6.7	15	20.0	40.0	40.0	-20.0	15	0.0	53.3	46.7	-46.7
外注発注量	15	0.0	60.0	40.0	-40.0	15	20.0	26.7	53.3	-33.3	15	0.0	53.3	46.7	-46.7

●建設業全社：「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iの推移

グラフ-10



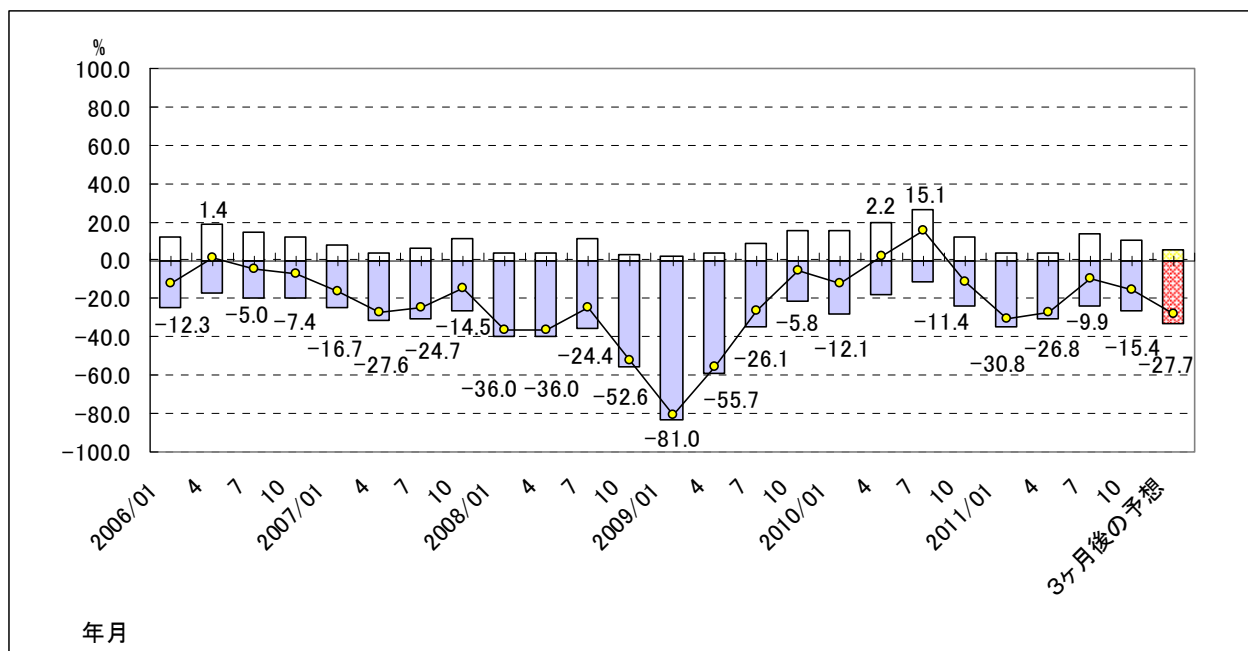
#### 4. 収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは $\Delta 15.4$ と前回調査時の $\Delta 7.1$ から8.3ポイントの悪化、「3ヶ月後」の予想D Iは $\Delta 26.5$ と前回調査時の $\Delta 6.6$ から19.9ポイント悪化した。

製造業の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは $\Delta 15.4$ と前回調査時の $\Delta 9.9$ から5.5ポイントの悪化、「3ヶ月後」の収益性予想D Iでは33.3%の企業が「悪化」を見込み同D Iは $\Delta 27.7$ と前回調査時の $\Delta 5.3$ から22.4ポイントの大幅な悪化となった。非製造業の「3ヶ月前」と比べた同D Iは $\Delta 15.4$ と前回調査時の0.0から水面下に沈み、「3ヶ月後」の予想D Iでも30.8%の企業が「悪化」を見込むなど厳しい収益環境が予想されている。

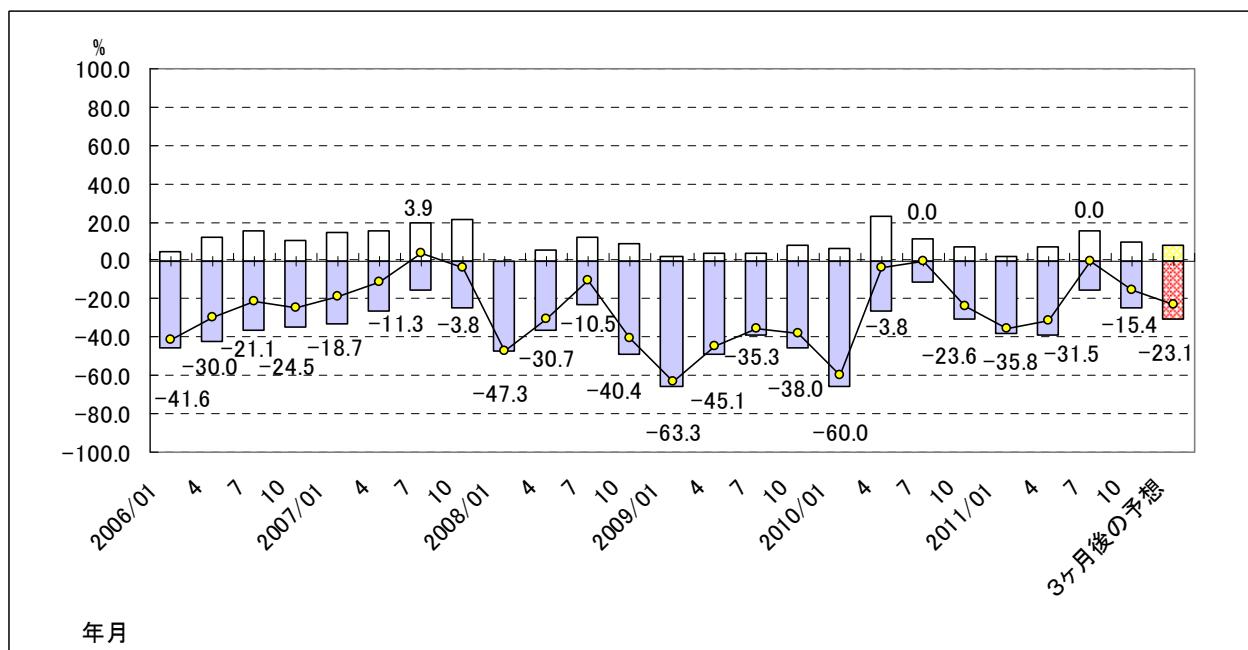
●製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフー11



●非製造業：3ヶ月前と比べた収益性D I

グラフー12



## 5. 経営上の課題

経営上の課題として①製造業は売上減少、単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、②商業は、売上減少、単価引下げ、③建設業は競争激化、売上減少、④観光・サービス業は売上減少、単価引下げをあげている。その他の項目では、円高、欧州の債務危機、タイの洪水などが上げられている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	101	74	10	6	11
単価引下げ	69	54	4	4	7
競争激化	55	40	3	8	4
資金繰り	41	29	3	2	7
人件費	26	19	3	2	2
労働力確保	9	7	0	0	2

## 6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【9月】	ハローワーク諏訪	0.81倍	+0.16ポイント	
手形交換高【10月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	7,263枚	+1,202枚	
	金額	10,258百万円	+2,068百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	6枚	+2枚
	金額	13,685千円	+12,464千円	
電力使用量【10月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	43,621 MWh	△3.0%	
	高压電力計	93,520 MWh	△6.1%	
	合計	137,141 MWh	△5.1%	
車庫証明取扱件数【10月】(諏訪地方合計)		949件	+6.7%	
新設住宅着工戸数【H23.4~9】(諏訪管内)		649戸	+25.5%	

## 7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- ①調査期間 平成23年10月末～11月上旬
- ②調査内容 「平成23年10月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- ③調査方法 アンケート調査(回答数 下記7)及びヒアリング調査(約130社)
- ④対象地域 諏訪地域全域
- ⑤業種 製造業、商業(大型店：売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業
- ⑥回答企業数 183企業
- ⑦回答率 68.5%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業	合計
依頼数	200	20	20	27	267
回答数	130	17	15	21	183